

# 学校力向上に関する総合実践事業 学校力アドバイザー研修（近隣校）

平成27年9月28日名寄南小学校にて、北海道教育大学教員養成改革推進本部 学校臨床教授 小松一保 氏による教育講演会が行われました。

## 講演会の概要

- 趣 旨 教育関係機関との連携により研修の充実を図り、小中学校の教職員（管理職を含む）の資質向上に資する機会とする。
- 主 催 名寄市教育委員会
- 主 管 名寄市教育研究所 名寄市教育改善プロジェクト委員会
- 期 日 平成27年9月28日（月）
- 会 場 名寄市立名寄南小学校 体育館
- 講 師 北海道教育大学教員養成改革推進本部  
学校臨床教授 小 松 一 保 氏
- 日 程  
14:45 15:00 15:10 16:20 16:30 16:40

受付	開会	教 育 講 演 会	質疑	閉会
----	----	-----------	----	----

## 8 教育講演会の流れ

- 開会の言葉
- 校長挨拶及び講師紹介 名寄市立名寄南小学校長 寺 川 利 幸
- 演題 「子どもたちの体力・運動能力の課題と改善策」  
北海道教育大学教員養成改革推進本部  
学校臨床教授 小 松 一 保 氏

- 子どもの実態・体力低下の原因
  - 子どもの行動
  - 子どもの外遊びの効用と規制
  - 保護者とのかかわり
  - お手伝い
- 体力・運動能力の向上をめざして
  - 学習指導の改善  
〈学習指導改善の具体例〉  
「運動の特性に触れさせる体育科の学習指導」
    - 短距離走の授業実践
    - 走り高跳び・走り幅跳び授業実践
    - 器械運動における授業実践
  - 行間体育の取組
  - 家庭・保護者との連携
  - 食生活教育の推進

- 質疑
- 謝辞 名寄市教育研究所 所長 馬 場 信 明
- 閉会の言葉

## 【教育講演会の概要】

### 「子どもたちの体力・運動能力の課題と改善策」

学校力向上に関する総合実践事業アドバイザー  
北海道教育大学教員養成改革推進本部

学校臨床教授 小松 一保 氏



#### 1 子どもの実態

(1) 学力や体力，好き嫌いが二極化している。ゲームや携帯電話が普及している。家庭で生活のルールをつくる必要性がある。

(2) 子どもを外遊びの効用と規制

不審者の事例が多く，外遊びする子どもの姿がさらに減っている。外遊びの体験は，体力を身につけることの他に対人関係能力を高めることができる。体力がないことと好き嫌いや肥満，限定された友人関係は結びついている。

(3) 北海道の子どもは東京と比べ一日の歩数が少ない。通学の時に送り迎えをする保護者もいる。

(4) 便利な物が増え，お手伝いは食器の準備や片付け，新聞取りなどで体を動かしていない。

#### 2 体力・運動能力の向上を目指して

(1) 学習指導の改善

〈運動の特性にふれさせる体育科の学習指導〉

競争相手を自分にしてできたという実感や，自分たちで考えて作戦を立てたりして楽しさを味わい，意欲を高めることが大切である。

小学生は，調整力を高める運動を取り入れることが有効といわれている。例として，縄跳びや一輪車や竹馬がある。

(2) 業間体育

子どもたちの実態を考えると行間体育を行う必要がある。

(3) 家庭・保護者との連携

朝食の摂取率と早寝早起きは生活習慣病との関係が深い。

運動については，話をするだけでも興味・関心が高まるそうである。保護者に伝えてほしい。

(4) 食生活教育の推進

子どもの生活が夜型になっている。子どものために「早寝，早起き，朝ご飯」運動を推進してほしい。



結びに，私のキャッチフレーズは「早寝，早起き，朝ご飯，ゲームをやめて外遊び，シャワーもやめて湯船につかりましょう」です。湯船につかるとは，体温を上げるという意味です。

\* 質疑では，短距離走の具体的な実践例についてやマラソンへの取組の効果について質問が出されました。的確な回答をいただきました。

\* 参加者は，「日常授業改善に役立つ実践を提示いただき参考になった。今後役に立てたい」と話していた。

\* 講演会 参加者 72名